

問7 傍線部F「理想的には」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 落下する物体間の相互作用を無視する。
- ② 落下する物体に重力が作用しない。
- ③ 落下する物体の形状が同一である。
- ④ 落下する物体の重さが等しい。
- ⑤ 落下する物体に空気抵抗が作用しない。

問8 傍線部G「科学の言説の危うさ」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 科学が、要素を切断することで自然の怒りに触れていること。
- ② 科学が、現実社会の諸問題のみを対象にしていること。
- ③ 科学が、予測不可能な現象を扱っていること。
- ④ 科学が、断片化された自然しか語らないこと。
- ⑤ 科学が、宇宙をカメラで説明しようとしていること。

問9 傍線部H「すなわち連関・合成に関する科学の感性を磨かなくてはならない」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 私たちの原初的な自然観を思い出すため。
- ② 無限に多様な自然の特性を回復するため。
- ③ 自然の予測可能な部分だけに焦点を当てるため。
- ④ 無限に多様な自然の個々の要素を把握するため。
- ⑤ 科学が失った要素還元的手法を取り戻すため。

問10 傍線部I「根本的なずれ」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 切断・連関された空間と生活世界の空間とのずれ
- ② 3次元空間とさらに高次元の空間とのずれ
- ③ 分解・合成できない空間と生活世界の空間とのずれ
- ④ 分解・合成できる空間と切断・連関できる空間とのずれ
- ⑤ 線形空間と生活世界の空間とのずれ

問11 傍線部J「シンドローム」とあるが、その意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 単一の器官が機能しなくなる現象
- ② 単一の器官が自然に治癒する現象
- ③ 複数の器官が連鎖的に障害を起こす現象
- ④ 複数の器官における予測可能な現象
- ⑤ 多数の器官が協働する複雑な現象

問12 傍線部K「チャイナ・シンドローム」とあるが、その言葉が生まれた由来として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 原子力発電所での事故の影響が地球の裏側に達するというイメージ
- ② 原子力発電所の事故が途上国の自然環境に被害を与えるというイメージ
- ③ 大国における原子力発電所の事故が再発してしまうというイメージ
- ④ 大国間の科学技術の競争により大きな事故が発生するというイメージ
- ⑤ 原子力発電所の事故が先進国の文明社会に影響を与えるというイメージ

問13 傍線部L「切断・分解、そしてフリーサイズ化」とあるが、この具体例として考えられるもののうち適切でないものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 小さな模型で行った実験から構造物の地震時の挙動の解析を行うこと。
- ② 地形の影響を無視したコンピュータシミュレーションで天気予報を行うこと。
- ③ 洪水などの自然災害の影響を無視して都市計画の策定を行うこと。
- ④ 一匹の魚の行動観察の結果から魚群の行動メカニズムの研究を行うこと。
- ⑤ 経済活動の影響を無視して将来の地球温暖化の将来予測を行うこと。

問14 本文の主旨として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 線形理論により要素を分解／合成することで自然の大部分は理解され、予測可能な領域のなかに飼いならすことができるようになった。
- ② デカルトが示した要素還元という手法により難しい自然現象は理想化・単純化され、システムとして自然の特性を把握できるようになった。
- ③ これまでの科学の言説は危うく、実際の自然現象とは乖離があるため、原子力発電所のような人類には制御できない人工物は文明社会に恐怖を与えている。
- ④ これまでの科学の制御を超えた予測不可能な自然現象の全体像を理解するために、非線形的な連関や合成を考慮する科学の感性を磨く必要がある。
- ⑤ 環境のような多種・多様な要素が結合した巨大な複雑システムの運動を理解するためには、まずその要素ごとの特性を非線形理論により解剖する必要がある。

測不可能性によって脅威なのである。ここで問題となるのは、シンドロームのきっかけとなる環境負荷の「大きさ」はどれほどか、そして結果として生じるさまざまな環境変動の「大きさ」はどの程度なのかということである。「環境」という言葉で表現される内容は、多種・多数の要素（大気、海洋、日照、そして極めて多種の生物が織り成す生態系）が結合した巨大な複雑システムの運動である。要素間の連関は、変動の大きさ＝スケールによってさまざまな変化し、シンドロームの予測を困難なものとす。

人体にせよ、複雑な人工物にせよ、あるいは地球環境にせよ、これら（システム）を構成する多数の要素の連関は、各要素の動き（働き）の大きさによって変調する——システムは、要素に分解して分析することが不可能な、ひとつの協働体として作用するのである。

要素間の連関・合成を分析すること、スケールに関するパースペクティブをもつこと、これらのことに科学は十分応えてこなかった。¹ 切断・分解、そしてフリーサイズ化について無頓着な理論——逆に自然の抽象化に、トウスイしている科学——の中心に（線形）という概念がある。（非線形）は、科学にリアリティーを取り戻すためのキーワードだ。

このことによつて、線形と非線形の関係を、数学的な構造の二項対立に留めることはできない。むしろ、科学の原点に遡及する問題として、線形と非線形の関係を分析しなくてはならないのである。

（吉田善章『非線形とは何か 複雑系への挑戦』による）

問1 傍線部アのカタカナを漢字に直しなさい。

問2 傍線部A「偶像化」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 偶然生じるさまざまな自然現象を観察すること。
- ② 人類の存在の理想像を発見すること。
- ③ 人や物を神や聖なる存在として見なすこと。
- ④ 偶発的に起こることを科学的に予測すること。
- ⑤ 自然が持つ絶大なエネルギーを使うこと。

問3 傍線部B「近代にいたって人類の自然観は大きく変質する」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 自然は調和を持ち、数学的に説明可能な存在として理解されるようになった。
- ② 自然は依然として予測が不可能で制御できない存在と見なされるようになった。
- ③ 自然は科学で解剖され、完全に予測可能なものとして認識されるようになった。
- ④ 自然は再現可能となり、人類と調和した存在として培養されるようになった。
- ⑤ 自然は数学的論理性を無視することで、役に立つものと考えられるようになった。

問4 傍線部C「深化」とあるが、傍線部にこれと同じ漢字を使う文章として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 本当に困ったときにこそ人間は、そのシンカを発揮する。
- ② 多くの生物は、何億年もの長い時間をかけて徐々にシンカを遂げてきた。
- ③ 彼女の哲学的な問いへの関心は、大学での学びを通じてシンカした。
- ④ 古代の皇帝は、多くのシンカを持ち、その助言を重んじた。
- ⑤ 彼の勇敢な行動は、村人たちの間でシンカされ、伝説となった。

問5 傍線部Dの「要素還元」とあるが、その意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 複雑に連動する事物を明証的な要素に統合すること。
- ② 要素を現実世界から切り離し、その特性を理解すること。
- ③ 要素ごとではなく、系として事物の特性を分析すること。
- ④ 理論的操作ではなく、哲学的思考により要素を分析すること。
- ⑤ 現実から切り離された要素を元の系に戻すこと。

問6 傍線部E「実験装置」とあるが、本文中で述べられている意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 切断された要素の特性を合成して新しい物質を作るもの。
- ② 現実世界とは異なる空間内で要素の特性を分析するもの。
- ③ 調節装置を用いて異なる要素間の複雑な挙動を観察するもの。
- ④ 思うがままに要素を反応させ、宇宙との結合を失わせるもの。
- ⑤ 現実世界での要素の応答を分析し、その蓋然性を確立するもの。

るだろう。たとえば、物理学で1つの物体の運動を論ずるとき、その「物体」とは、宇宙から切りとられ、その内的な特性が捨象された、抽象的な〈モデル〉である。このモデル（質点と呼ばれる）を記述するのに必要な概念は、物体の質量と重心点の空間的な位置、そして時間だけだ。ガリレイ（中略）の有名な学説は、次のように主張する…重いものでも軽いものでも「理想的には」同じ速度で落下する。ここで「理想的には」というのは、物体と空気との相互作用を無視するという意味である。ガリレイが想定した落下する物質のモデルとは、実験的には真空装置の中におかれた物体に相当する。だが、現実世界では石と鳥の羽の落下は違うわけであり、その違いを、ガリレイが捨象した空気の抵抗を考慮して正確に予測することは、最大級の計算機を使っても未だ不可能な課題である。これほど難しい問題を「理想的には」という言葉で一挙に単純化しているのだ（中略）。

ここに、^G科学の言説の危うさが見て取れる。切断された要素、解剖された自然を理解することと、現実世界の諸問題とはいかに遠いものであるか。私たちが知りえること、制御できるものは、ほんの小さな〈エレメント〉の微かな動きだけだ。1つのりんご、1つの惑星、一群の生物種、ある領域の気象といったように、あたかもカメラのフレームで切り取られた、宇宙の中の小さな部分を記述しようとしている。このとき、関心を向けた領域とその外部は「切断」されている。科学によって語られてきたのは、断片化された自然に過ぎない。自然を苛む過程で、科学が忘れてしまった（いや周到な理屈で周辺化してきた）私たちの原初的な自然観——予測不可能で無限に多様な自然——これを回復するためには、切断・分解とは逆の概念操作、すなわち連関・合成に関する科学の感性を磨かなくてはならない。

分解／合成の「可逆性」を、単純さの極限で探求するのが〈線形理論〉である。線形とは〈比例関係〉の一般化＝高次元化である（比例関係のグラフが直線で表されることから〈線形（linear）〉という言葉が用いられる）。比例関係は、2つのパラメタ（変数）の間に指定される最も平明な関係だ（中略）。たとえば、みかん1個が30円であるとき、5個なら150円と計算する。ある回路に1Vの電圧をかけたとき電流が0.1A流れたとすると、10Vの電圧をかけたら電流は1A流れると推論する。このように、まず比例関係が成り立つと考えるのは自然な予測である。比例関係の数学的な特徴は、複数のパラメタ間の関係へ一般化できる（中略）。複数のパラメタで構成される変数を〈ベクトル〉という。ベクトルという言葉は最初に学ぶのは、物理で〈力〉の分解／合成を教わるときだろう。ベクトル——しばしば矢印^Hによって幾何学的に表象される——は、〈平行四辺形〉を使った幾何学的操作で分解／合成できる。この作図法は、ベクトルを2つの〈辺〉の方向へ比例配分するという意味であり、この操作を繰り返せば、3次元の空間の中でも、あるいはもっと高次元の空間の中でもベクトルを分解／合成できる。

科学の目は、その関心を向けた対象を〈パラメタ化〉することによって〈ベクトル〉に還元しようとする。対象は〈ベクトル＝矢印〉という幾何学的オブジェクトに変換されて、〈ベクトル空

間（あるいは〈線形空間〉ともいう）の中に写しとられるのである。この「空間」には〈線形〉という基本構造が、そこに置かれるべきオブジェクトを^Uヨケンして——すなわちベクトルの分解／合成を可能とする公理体系として（中略）——すでに仕組まれている。このために、〈線形＝一般化された比例関係〉という「法則」が「空間」の枠組みと一体化する。線形法則の「真直ぐなグラフ」は、それ自体が「部分空間」となるのだ（中略）。

しかし、線形理論が提示する「分解／合成が自在な事象＝線形法則によって構造化された空間」という理論と、私たちの生活世界の空間認識——空間の中で展開する諸現象の予測不可能性、多様性、切断・分解／連関・合成の不可逆性——との間には、^I根本的なずれがある。この乖離は、どこから始まるのだろうか？

2 シンドローム

「シンドローム（症候群（中略））」という医学用語がある。人体は、固有の機能をもつ多数の器官が協働する複雑システムである。あるひとつの器官が少し不調であるという場合には、投薬で機能を修正するとか、外科手術で小さな部分を除去するとかの処置で病を治療することができるだろう。しかし、大きな不具合が起きている場合には、複数の器官が連鎖的な障害を起こし、ある部分を修復しても他のところが不調になるという事態に陥り、システム全体を健全な状態へ戻すことが困難になる。このような現象をシンドロームという。

この医学用語は、制御できていたはずのものが予測不可能な振る舞いをはじめることを表すレトリックとして、いろいろな現象に対して使われる。現代は、自然に対して人間が付け加えた複雑な人工物であふれている。たとえば原子力発電所は、原子核反応の制御システム、冷却水の^Eジュンカンシステム、蒸気発生器とタービン発電システム、送電・電力ネットワークシステム、そして運転員が連結して構成される巨大なシステムである。この中で生まれる「揺らぎ」が、運転員のエラーを介して増幅し、ついには炉心の^Y熔解にまでいたるということが、実際に旧ソビエトのチェルノブイリ原子力発電所で起きた（1986年）。このような原子炉事故を「^Kチャイナ・シンドローム」という。アメリカの原子力発電所で炉心熔解が起こると、熔解した核燃料が核反応を続けながら岩石を溶かして、ついには地球の裏側の中国に達するだろうという荒唐無稽なイメージを表した言葉だったが、半分本当になってしまった。ある程度の複雑さをもったシステムの振る舞いは、たとえば人間自身が設計したものであっても、予測が極めて難しいということを、この悲劇的なエピソードは物語っている。

現代の文明社会を不安に落しとれている「環境問題」は、まさに地球に起こるかもしれないシンドロームに対する恐怖である。人類の営みが、実際のところいかに大きなダメージを地球に与えているのか、その影響が予測不可能な現象を引き起こし、自然は巨大なエネルギーをもって、私たちに復讐^{ヤシヤ}を遂げるのではないか？ 自然は、依然として、その巨大なエネルギーと予

問10 (J) に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 受け止める
- ② 聞く
- ③ 全く
- ④ 理解できる
- ⑤ 一切の

問11 本文で述べられている内容として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① ファンタジーとの会話の中で、河野は自堕落な生活に身を任せている自分の態度に気がつくが、かといっていままら平凡なサラリーマン生活に甘んじることも馬鹿らしく感じており、派手な生き方にあこがれた。
- ② 新橋の焼鳥屋とかモンマルトルのカフェとかブダペストの下町なんかによくいるやじ馬を自称するファンタジーに付きまとわれても何ら面白みのない生活に終始している河野は、孤独な者の感じる悲哀に打ちひしがれた。
- ③ 気まぐれで、居残ることもあれば、消えることもあるファンタジーが自らのことをしばらく観察していつと現れたと言われると、河野はどこかしらに薄気味悪さを感じ、居心地の悪さを覚えた。
- ④ 廊下に積み上げてあつた円テーブルと椅子二脚と、デッキチェアを並べてようやくリビングらしいものができ上がったところに通されたファンタジーのあつけにとられた様子に、河野は機転の利く才覚が自分にはあると感じるようになり、自信を深めた。
- ⑤ 三億円の宝くじに当たった河野は「家庭の事情」の一点張りで会社をやめ、東北、北陸、山陰、九州、山陽をまわる旅に出かけ、最後に敦賀に戻ってきて、空き家になっていた古い家を買って一人で暮らす人生を選択した。

国語 15

第三問 次の文章を読んで、後の問い(問13、14)に答えなさい。(設問の都合上、本文と図表等の一部を省略・改変した。)

自然と科学

もともと人類にとって「自然」は偉大にして気まぐれな存在であった。さまざまに^A偶像化された自然の姿は、人をもてあそぶ神あるいは怪物だ。恐ろしいのは、その絶大なエネルギーと、予測できない振る舞いである。

しかし、近代にいたって人類の自然観は大きく変質する。近代科学によって「解剖」された自然は、その本質において調和であり、数学的な論理性に貫かれ、うまくすればいろいろ役に立つと考えられるようになった。つまり、自然の中の予測可能な(あるいは再現可能な)部分を^B腑分けして培養し始めたのである。ここで予測といったのは、時間的な未来予測だけではない。さまざまな因果関係を知ることだ。たとえば、この病気にはあの薬草が効くといったような経験知から始まり、薬草の成分分析を通じて、ヤッコウをもつ物質が突き止められ、さらには効果が現れる仕組みが分子レベルで^C解明される。このように、科学の知は普遍性あるいは原理に向かつて、ますます^D深化しようとしている。

だが、本当に、科学は自然を予測可能な領域のなかに飼いならすことができるのか？

1 苛まれた自然

現実世界の事物は、複雑に連動する多数の(要素(エレメント)が結合した)系(システム)である。そのままでは分析することが難しいので、まず要素に分割して、各要素の特性を理解することから始めるべきである。デカルト(中略)は『方法序説』のなかで、科学が明証的であるための方法論的前提を述べ、そこで(要素還元)という考え方を示している(中略)。(還元とは、直接的に操作可能なものに置き換えることを意味する哲学用語だ。要素還元は、複雑な系を構成する要素を現実世界から「切り離して」それぞれについて、さまざまな実験的あるいは理論的な操作による厳密な分析ができるようにするという科学の戦略である。

自然から要素を切り離すという作業——すなわち(切断)——は、実験においては「実験装置」という特殊な空間を作ること、理論においては「モデル化」を意味する。実験家の仕事は、自然を苛むようにして、要素を現実世界から(切断)することだ(中略)。実験装置という^Eカクリされた空間には、いくつかの能動的な調節装置が用意されていて、これら^Fを操作しながら要素の応答を観察し、その特性を分析することができる。無限に広がる宇宙との結合を失った要素は、装置の思うがままに反応する。こうした実験によって蓋然性^Gが確立されたとき、要素還元が完成するのである。

理論におけるモデル化も(切断)という概念操作から出発していることを述べておく必要がある

国語 16

問4 (D)に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① まさに
- ② まして
- ③ 当然
- ④ よもや
- ⑤ まるで

問5 傍線部E「軽いため息をついた」とあるが、この時の河野の心情として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① ファンタジーがあまりに理不尽なので、先行きの読めない不安を感じている。
- ② ファンタジーの気まぐれな態度に呆れている。
- ③ ファンタジーのやじ馬ぶりには説得力がないので、いらいらしている。
- ④ ファンタジーが居残ることもあれば、消えることもあるのに驚いている。
- ⑤ ファンタジーの貴様をしばらく観察していたという言葉に薄気味悪さを感じている。

問6 傍線部F「ぶらぶらしていると人目がうるさいやんか」とあるが、そのように述べる河野の心境として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① キッチンの狭いテーブルの上にホットプレートを置いて、慣れた手つきで料理をする生活にも気だるさを感じている。
- ② 海釣りは仕事ではあるものの、上りがたいしたものではないので、人目をかわすのに苦労している。
- ③ 釣り、料理、洗車など、人並みのことをしてから缶ビールを飲む日課を説明するのに飽き飽きしている。
- ④ アパート収入をみんな秘密でフォスター・プランに寄付し、貧しい地域の子供たちを支援する生き方にも退屈している。
- ⑤ よい年をしてるくに仕事もせずに遊んで暮らしている人間になど、全く理解を示さない田舎の人々の視線に辟易^{へきえき}している。

問7 傍線部G「こんこんと湯が湧きだすような笑い」とあるが、その様子を言い表したものとして、適切ではないものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① どこまでも止まらない様子。
- ② 興味や関心のある様子。
- ③ 音を立てている様子。
- ④ 尽きることのない様子。
- ⑤ 心からおかしく感じている様子。

問8 傍線部H「こんな生活」とあるが、ここではどのような生活のことを指しているのか。

- ① 高級住宅街に住み、豪華客船に乗ったりするなど、通常では考えられない贅沢^{ぜんたく}三昧に溺れるような生活。
- ② 東北を一周し、北陸から山陰へと走り、九州に渡っていくつかの海に近い城下町を見てから引き返して山陽をまわるような生活。
- ③ 妻子も持たず、かといって仕事に打ち込むでもなく、ただ何となく時間だけが過ぎていくような生活。
- ④ 敦賀に戻ってきて、空き家になっていた古い家を買収^{しやく}して商売を始めるような生活。
- ⑤ 持っている財産を全て途上国に寄付し、その国の発展に貢献して満足するような生活。

問9 傍線部I「呆然と寝転んでいた」とあるが、その時の河野の心情の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 店員という商売に飽き飽きし、東京から離れたかったが、かといってどこで暮らすのがよいのか分からないでいる。
- ② 総務課の片桐が言っていたように、誰にも話さず自分のために使うことができるのかどうか悩んでいる。
- ③ やりたいことが全くないのにお金ばかりもらっても仕方がないという自暴自棄な気持ちになっている。
- ④ 宝くじに当たっても、大金を手にしたという実感が湧かず、どうしたらよいかわからないでいる。
- ⑤ 一人前の人間というのは仕事をするものだという常識に縛られ、どこか田舎で何もせずひっそりと暮らす決断ができないでいる。

だった。

「ひょっとすると貴様は大金持ちなのか」

「そうや」

河野が答えるとファンタジーは笑った。こんこんと湯が湧きだすような笑いだった。河野はその笑い方が気に入った。そう簡単に嫌いになれる相手ではなさそうだった。

「昼飯はお好み焼きでええか？」

キッチンから河野が声をかけた。前から気配を感じていたせいか、ファンタジーが家にいることに何の違和感もなかった。人間ではないからだろう、と河野は思った。

キッチンの狭いテーブルの上にホットプレート置いて、河野は慣れた手つきで二種類の生地を円く焼き、残りをさっと炒めた焼きそばの上にかぶせるように広げた。

「女はいるのか」

ぶつぶつと生地に泡が浮かんでくるのを見ながらファンタジーは言った。

「女か……おらんな」

「ずっとこんな生活をするのか」

「ファンタジーにそんなこと聞かれるとは心外やな」

河野は少し笑ったが、それからまじめな顔をしてお好み焼きを次々とひっくり返し、ハケでソースを塗りながら話しはじめた。

四年前の一月、銀座でデパートの店員をしていた二十九歳の河野は、会社の寮の部屋で通帳を見ながら「呆然と寝転んでいた。真新しい通帳には三億円の数字が刻まれている。宝くじに当たったのだ。」

何に使おうか、彼は迷った。彼には高級住宅街に住む理由がなかった。豪華客船に乗りたいと言う恋人もいなかった。車は去年ビックアップトラックを買ったばかりだった。独立して何かの会社を起こす気もなかった。つまり、彼にはやりたいことが何もなかった。いっそのこと全てを途上国に寄付してしまおうかとも考えた。三億円あればずいぶん貢献することができる。しかしそれで自分は本当に満足できるのだろうか。彼はデパートの同期で総務課にいる片桐という女に相談した。彼女は迷わず、自分のために使え、と言った。そして誰にも話したらいけない、とくどいほど念を押した。

会社をやめよう、と彼は思った。東京はもうたくさんだった。店員という商売にも飽き飽きしていた。といって実家のある大阪に帰るつもりもなかった。どこか田舎で何もせずにひっそりと暮らしたかった。両親はさして反対もしなかったが、八歳年上の兄だけは、なにも勤めをやめることはないだろうと言った。一人前の人間というのは仕事をするものだというのが兄の

考えだった。だが、河野は（Ｊ）耳をもたなかった。

河野は、片桐に退職届の用紙を買って書き込んだ。退職理由の欄には、「一身上の都合」と書いた。さらに理由を知りたがる同僚には「家庭の事情」の一点張りで会社をやめた。

それから河野はビックアップで旅に出た。東北を一周し、北陸から山陰へと走った。九州に渡っていくつかの海に近い城下町を見てから引き返して山陽をまわった。最後に彼は敦賀に戻ってきて、空き家になっていた古い家を買って一人暮らしを始めた。

（絲山秋子『海の仙人』による）

問1 傍線部A「諦めたように」の「よう」の用法に最も近いものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 今から学校へ出かけようとしていた。
- ② そんなに殴りたいと言ったら、ひとっ殴られてみようじゃないか。
- ③ 国からの助成金が今にも打ち切られようとしている。
- ④ 雪のように白い肌の人だね。
- ⑤ こんな人気のない片田舎にだれが来よう。

問2 傍線部B「河野は眉をひそめた」とあるが、なぜか。その理由として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① ファンタジーの傍若無人な態度や不遜な笑いに對して、不快感が募ったから。
- ② ファンタジーの笑いが不気味だったので、恐怖の念を抱いたから。
- ③ ファンタジーの強引な態度に腹を立てたものの、どうすることもできなかったから。
- ④ ファンタジーのエンジンがかかる動作を阻止できず、不快の念に襲われたから。
- ⑤ ファンタジーのドアを開けて座ってしまう様子を呆然と眺め、そのままでいるしかなかったから。

問3 傍線部C「面持ち」とあるが、その用法として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① あまりの恥ずかしさに彼女は面持ちを伏した。
- ② 秘密を暴露して、彼の面持ちを汚した。
- ③ 彼女は面持ちが厚くて扱いに困るよ。
- ④ 彼女は緊張の面持ちで面接に臨んだ。
- ⑤ 彼には幼少の面持ちが残っている。

河野はギンガムチェックのシャツをはたいて、ファンタジーの顔を横目で見た。するとファンタジーは運転席側に身を乗りだしてエンジンをかけた。カーステレオからシド・バレットの「ジ」ロおばさん」が流れた。

「なんというセンスだ」

ファンタジーの呆れた声が聞こえたが、河野は黙って濡れた海水パンツの上からタオルを巻くと運転席に上がり車を発進させた。白いローブと腰タオルの男二人を乗せたピックアップは海沿いの道をゆつくりと走り出した。

「貴様、名前は？」ファンタジーが言った。

河野はファンタジーに一瞥をくれた。

「僕のことを知つとつて来たわけちゃうの？」

「地上には六十億もの人類がいるのだぞ。いちいちチェックなぞしてられるか」

「そうか、僕は河野勝男っていうんやけど……」

「その言葉は大阪弁だな」

「うん、生まれは大阪で育ちは京都や、その後東京で働いてた」

「そうか、今はなにを？」

「何もしてへん」

「何も？」

河野は前を向いたまま頷いた。車は国道二七号の長いトンネルを抜けて住宅の建ち並ぶ敦賀市内に入った。時刻は午前八時を過ぎたばかりだった。

「あんたこそ何してはるの？」

「俺か、俺は大したことないぞ。大体、神というものは何もしないものだ」

「神さん？」

河野が聞き返すとファンタジーは無然とした面持ちで言った。

「親戚のようなものだ、中でも俺様が一番でかい悪い」

「ありがたいけど、僕には何も願いはないよ」河野は言った。

「このままそつとおいて欲しいだけや」

「俺様はそんな都合のいい神ではないぞ。奇跡だつてあまり上手くない。せいぜいが、孤独な者と語り合うくらいだ。トキとか、その前は二ホンオオカミだったな」

「僕も絶滅系か」

「俺様のことはやじ馬だと思ってくれたまえ。よくいるだろう、新橋の焼鳥屋とかモンマルトルのカフェとかブダベストの下町なんかに」

ファンタジーはそう言ったが、新橋の焼鳥屋と敦賀の海辺とを一緒にされても（D）説

国語 9

得力はなかった。

「さあ……でもやじ馬が面白がるようなことは何もないで、僕には」

「それは俺様が見て決めるさ」

「嫌やつて言うたら？」

「それも俺様次第だ。居残ることもあれば、消えることもある。なにしろ俺様は気まぐれだからな」

河野は軽いため息をついた。

「心配するな、貴様のことはしばらく観察しててやつと現れたのだ、そう簡単には消えないぞ」ファンタジーは言った。

「なにか気配は感じてたよ。下手くそやな」

「うむ。なんとも言え」

河野が笑いをこらえている間に車は坂を駆け上がり、彼の家に着いた。

家は古い造りの平屋だった。河野は庭先に強引にピックアップを寄せると、掃きだし窓を外した。部屋の床にはあたりの柔らかい特殊なタイルが貼られていた。河野はそこにピックアップの荷台いっぱい砂を流し込んだ。スコップで、小山になっているのをならして、砂を部屋に敷き詰めていく。ファンタジーがあつけにとられているうちに、河野は廊下に積み上げてあつた円テーブルと椅子二脚と、デッキチェアを並べてようやくリビングらしいものができ上がった。

「入れ替えせんとな、衛生的にやないねん」

河野は台所で手を洗うと缶ビールを持ってきてすすめた。ファンタジーはデッキチェアに腰を下ろして、窓の外の高い海を見ながらビールを飲んだ。河野は立ったままビールを飲んだ。

「これで貴様の一日は終わりか？」ファンタジーが言った。

「いや、僕の一日は長いよ」河野は答えた。

「予定でもあるのか？」

「釣り。釣れたら料理、洗車。そんなとこかな」

「釣りが仕事か」

「仕事言うたら、一応アパートを二軒持つてるわ」

「それが仕事か」

「田舎やし、ぶらぶらしてると人目がうるさいやんか。せやけどアパートの上がりはみんな秘密で寄付してしまうんや」

河野は銀行に振り込まれる家賃がまとまった額になると、フォスター・プランに寄付していた。貧しい地域の子供たちを支援するというのが、自分の考えに一番合っていると思ったから

国語 10

問10 傍線部Ⅰ「そのことを直撃したのが、今日のコロナ禍とロシアによるウクライナ侵攻である」と捉えることができる」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① コロナ禍とロシアによるウクライナ侵攻は、経済活動をすべてオンラインに移行すべきだという主張を裏付けるための出来事であることを示している。
- ② コロナ禍とロシアによるウクライナ侵攻は、現代社会における国際的な関係の複雑さを明らかにした出来事であることを示している。
- ③ コロナ禍とロシアによるウクライナ侵攻は、これからの人々の生活において更にグローバル化が最優先されるべきだということを強調するための例であることを示している。
- ④ コロナ禍とロシアによるウクライナ侵攻は、自然災害や戦争がどのようにして新しい技術の導入を加速させるかを具体的に示した例であることを示している。
- ⑤ コロナ禍とロシアによるウクライナ侵攻は、世界中のすべての国境を完全に取り払うことの正しさを証明した出来事であることを示している。

問11 (J)に入る語句として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 形容詞
- ② 接統詞
- ③ 前置詞
- ④ 代名詞
- ⑤ 動詞

問12 本文の主旨として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 境界線が文化や歴史を通じてどのように進化してきたかを述べ、その過程での人間の役割と自然との関連性を探究している。
- ② 境界線の変遷とその社会的、生態学的影响に焦点を当て、境界線がいかに共生や分断を促進してきたかを詳述している。
- ③ 自然界と人間社会の境界線を例に、消失しつつある境界線がどのように人々の生活や環境に影響を与えているかを分析している。
- ④ 人間と自然、および人間社会内の境界線が、分断ではなく共生にとって重要であることを説明している。
- ⑤ 歴史的な壁と現代社会の境界線の役割について議論し、境界線が持つ共生と分断の側面を強調している。

国語 7

第二問 次の文章を読んで、後の問い(問1～11)に答えなさい。(設問の都合上、本文の一部を省略・変更した。)

ファンタジーがやって来たのは春の終わりだった。その気配、その存在感はもっと前から感じていたのだが、河野勝男が初めて言葉を交したのは、水晶浜でその年初めて泳いだ日のことだった。敦賀半島の西側に五〇〇メートルにわたって広がる明るいベージュの砂浜は、夜間の干満でまっさらに洗い上げられていた。

河野はいつも通り早朝にやって来て、オレンジ色のダットサン・ピックアップを浜まで乗り入れると、荷台に積んであった砂をぶちまけ、空になった荷台に朝日を反射してきらきら光る新しい砂をスコップで積んだ。そのうち体が熱くなってきたので緑のギンガムチェックのシャツを脱いでまるめて運転席に投げ込み、ジーンズも脱ぐと海パン一枚になった。汗が浮かんだ背中や、筋肉のついた腿に砂粒がくっついたが彼はわき目もふらずに砂を投げ続けた。ピックアップの荷台が砂で一杯になると彼は作業をやめ、ゆっくりと海に入ってしまった。波打ち際の明るい碧の海は、一枚の布のように端の方から順々に立ち上がり、ゆるいカーブの壁を作って足にぶつかる。諦めたように白く砕けて引き返した。

透き通った水は徐々に深くなった。胸までつかると彼は汗ばんだ体のあちこちを快く刺す水の感触を楽しんだ。それから抜き手を切って沖まで出ると立ち泳ぎになって、黄色っぽい岩場の向こうに建つ美浜原電の眠そうな姿を見ていたが、やがて蹴伸びの強さを意識しながら平泳ぎで浜に戻った。

ファンタジーが河野の前に姿を現したのはその時だった。白いローブを着た、四十がらみの男の姿で河野の目の前に立った。砂の上に足跡はなかった。色の褪せた金髪といい、灰色の目といい、とても日本人には見えなかったがふつうに日本語を操った。

「まだ水は冷たいだろう」ファンタジーは言った。

河野は何もないところから男が現れたので少し面食らったが、

「冷たいくらいが好きなんや」

と、答えた。それからまっすぐに男を見つめると言った。

「ファンタジーか」

「いかにも、俺様はファンタジーだ」

「何しに来た」

「居候に来た、別に悪さはしない」

「なんで僕のところ」

ふふとファンタジーが笑ったので、河野は眉をひそめた。ピックアップに戻ってタオルを取りだし、体を拭いているとファンタジーはさっさと助手席のドアを開けて座ってしまった。

国語 8

問5 傍線部D「庭園の世界の話」とあるが、筆者がその話を挙げた理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 異なる種類の植物が共存するためには適切な境界線が必要である例を示し、境界線が必ずしも分断を意味するものではないことを説明するため。
- ② 自然保護のためには庭園のバランスが大切であることを示し、境界線の存在が庭園の美しさと自然の調和を強調するためには必要であることを説明するため。
- ③ 竹と松の配置方法を例に、庭園設計の専門知識を提供し、植物の生育における理想的な環境条件を具体的に説明するため。
- ④ 庭園の設計が都市計画にどのように応用できるかを示し、植物の成長速度が都市計画に与える影響について説明するため。
- ⑤ 庭園の手入れ方法と技術を紹介し、現代の庭園が歴史的な庭園とどのように異なるかを説明するため。

問6 傍線部E「まさにこの隔壁の存在によるものだといえる」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① ミツバチの巣における隔壁が巣の全体構造を支え、崩れにくくしているように、都市の建物における隔壁が耐震性を高め、災害時の被害を最小限に抑える役割を果たしていること。
- ② ミツバチの巣における隔壁が蜂蜜の収穫を効率化する役割を果たしているように、都市における隔壁が物流センターの作業を効率化し、商品の迅速な配送を可能にする役割を果たしていること。
- ③ ミツバチの巣における隔壁が蜂蜜の保管に適した環境を提供し、品質を保つ役割を果たしているように、都市における隔壁が商業施設や倉庫の温度や湿度を管理し、商品の品質を保つためのシステムとして機能していること。
- ④ ミツバチの巣における隔壁がミツバチを捕食する外敵の侵入を防ぎ、巣全体を守っているように、都市における隔壁が不法侵入や犯罪から住民を守る防御システムの一部として機能していること。
- ⑤ ミツバチの巣における隔壁が幼虫の成長を効率的に保護し、感染症の拡大を防ぐ役割を果たしているように、都市においても隔壁が個々の生活空間を確保し、住民が安全かつ快適に暮らせる環境を提供していること。

国語 5

問7 傍線部F「いる」と同じ用法として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 明日までに書類がいる。
- ② 新たな方法を用いる。
- ③ 今までいるようにでない。
- ④ 動物が山の辺りにいる。
- ⑤ 道が大きく曲がっている。

問8 傍線部G「『デザインの思考』とあるが、本文中の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 既存の設計手法を踏襲し、新しい理論や概念に基づいて独自の空間を作ること。
- ② コスト削減を最優先に考え、いかに安く建築物を完成させるかを追求すること。
- ③ これまでの視点にとらわれず、共生のために空間設計を工夫すること。
- ④ 最新の技術を駆使して、最も高度な機能を持つ空間を作ることを目指すこと。
- ⑤ 装飾や色彩に重点を置いて、建物や空間の見た目の美しさを最優先に考えること。

問9 傍線部H「海や山脈や川のように多様で空間的な境界もイメージの中に含むべき」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 自然界の境界線は、いつでも明確にイメージできるものであり、人間が作る境界線も常に視覚的に認識できるように設計すべきであるということ。
- ② 自然界の境界線は、美しい風景を形成するために存在しているものであり、人間が作る境界線も主に景観の美しさを目的として設計されるべきであるということ。
- ③ 自然界の境界線は、すべての生物にとって共通のルールを持っているものであり、人間が作る境界線も全ての人々にとって同じルールを適用すべきであるということ。
- ④ 自然界の境界線は、直線的なものではなく、複雑で広がりのあるものであり、人間の作る境界も同様に柔軟で多様な形態を持つべきであるということ。
- ⑤ 自然界の境界線は、人間によって簡単に変更できるものであり、人間が作る境界線も容易に変更可能であるべきであるということ。

国語 6

様で空間的な境界もイメージの中に含むべきで、太さのない理念的な線だけが境界ではないはずだ。そして知覚の生垣のように願わくば戦火の炎ではなく、爽やかで平和な風を感じられる豊かな境界線が少しでも長く世界を優しく包み込んでほしいと願う（中略）。

アナログの境界とデジタルの脱境界

現代はITによるネットワーク化が図られ、世界は国境を超えてより緊密につながるようになった。産業のグローバル化も国境を超えて進行し、自動車産業をはじめとするあらゆる産業とともに、建築や都市建設においてもかつてのように一国の中で素材や部品を調達する時代ではなくなった。しかしこれによって国境という境界線が消えたわけではない。そのことを直撃したのが、今日のコロナ禍とロシアによるウクライナ侵攻であると捉えることができる。物と情報は引き続きある程度は行き交っているが、人の移動は大幅に制限されるようになった。コロナ禍による事実上の国境封鎖はグローバル化された産業のサプライチェーンを麻痺させると同時に、これほどまでも産業のグローバル化が進んでいたことを世界の人々にカクセイさせるきっかけとなった。

思えば二〇世紀は脱国境主義のグローバリズムが最大限に開花し、さまざまな矛盾をも生み出した世紀だったといえる。それ以前からの古典的なグローバリズム、すなわち中世から近世にかけて世界を大きく変えた宗教改革とそれが引き金になって起こされた欧米列強の世界の植民地化、マルクス主義の登場から世界の分断と統合の流れがそれにあたる。宗教とイデオロギーは国境を超えて人々がつながる力を持っているが、結局はさらなる覇権主義と全世界を巻き込んだ戦争の拡大を生んだ。これはなぜなのか。グローバリズムとローカリズムの共生がうまく機能しなかったからではないか。そして一方が他方をクチクする対立の構図が生まれてしまったからではないか。

全体の正義のためには境界線は不要であると考えた人たちと、個別のアイデンティティーのために壁を立てて自己を守ろうとする二者の食い違いによる戦いになったからともいえる。今こそ人間、動植物とあらゆる生物が個と群れの両方の属性を持っていることに思いを馳せるべきではないか。境界線は「ない」ほうが良いと考える原理主義的なグローバリズムでもなく、境界線の旧弊に縛られるキョウリョウな個別主義でもない第三の道を模索すべきときだと思う。そのためには境界線が分断のための線ではなく、葉にとつての葉脈のように多様性と生命を維持するための（J）であり、それ自体が有機的に生成変化する第三の実体であるとするヴィジョンを持つことが重要だ。都市と自然はさまざまな対立の事例とともにいくつもの共生のモデルが存在する知の宝庫であり、異なる領域と領域が接する境界線のあり方にこそ共生の思想を考えるための最大のヒントが隠されている。

（團紀彦『共生の都市学』による）

国語 3

問1 傍線部ア～オのカタカナを漢字に直しなさい。

問2 傍線部A「言を俟たない」とあるが、この意味に最も近い四字熟語を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 我田引水
- ② 言行一致
- ③ 至極当然
- ④ 泰然自若
- ⑤ 多事争論

問3 (B)に入る語句として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① あらゆる
- ② 数少ない
- ③ 地理的な
- ④ 無意識
- ⑤ 目に見えない

問4 傍線部C「それらを取り払って解放すること」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 壁を感じずる感覚をなくして、社会的な結束を強化すること。
- ② 国境をなくして、すべての国家を統合すること。
- ③ 自然界の障壁をなくして、動植物の保護区を拡大すること。
- ④ 人種をなくして、宗教やイデオロギーの多様性を認めること。
- ⑤ 分断をなくして、自由に交流できる社会を実現すること。

国語 4

第一問 次の文章を読んで、後の問い（問1～12）に答えなさい。（設問の都合上、本文と図表等の一部を省略・変更した。）

自然の中の境界線

人間や動物のテリトリーとしての境界のほか、河川や海といった自然地形の中に生ずる境界もある。（中略）自然界にはこうした幅のある境界は無数にあり、生態系保全の観点からも、こうした境界が安全管理の名の下に一本の線に収斂^{しやうれん}しすぎて分離を強化しすぎることが、いかに多くの生物の棲家^{すみか}を奪うことにつながるかは、言を俟たない。人間と自然に対する完全な分断をすることが安全性の確保につながることも多いが、両者をつなげることも大切であり、常に境界線は両者の共生を可能にするようなバランスのとれた調節機能を持つことが大切だと思う。

分断の境界線と共生のための境界線

境界線、または境界壁といえ、歴史的にも漢民族が北方騎馬民族の侵入を防いだ万里の長城や、アラブ人とユダヤ人の分断の象徴となってきたイスラエルの嘆きの壁、近年では一九六一年から一九八九年まで東西冷戦の対立構造を物語るベルリンの壁といった分断の象徴が思い浮かぶ。こうした壁は、一つの時代が終わりを告げてそれが取り除かれたときに、ベルリンの壁崩壊のときのようにEU統合のシンボルともなった。

一九世紀末から二〇世紀にかけてのヨーロッパでは、（B）レヴェルの分断の壁——政治的な分断や社会的分断、人種的分断から都市城壁、国境線にいたるまで——が旧弊のシンボルとして取り除くべき対象として扱われてきた。そして、それらを取り払って解放することこそが、リベラリズムの根幹をなす行為と見なされるようになった。ことに宗教とイデオロギーについては、国境そのものを超えたグローバルな性格を持っているために、壁を取り払うことは是とする遺伝子を持つことが多い。しかし人間界に限らず動物や植物を含むあらゆる生物界の境界線を見れば、それらが必ずしも分断と争いの象徴だけではなかったことがわかる。

庭園の世界の話になるが、タケとマツが隣接する境界線には十分な距離を空ける必要があるといわれているが、それができない場合には地中に約二・五mものコンクリート壁を設ける必要がある。タケの地下茎は強く、そのままにすればマツの領域にまで侵入してマツを枯らししてしまうからだ。壁だけではなく高低差を設けたり、せせらぎを設けるなど壁に代わる分離の庭園手法により両者を共存させる場合もある。もし両方の植物を大切にしたいのであれば、境界領域に共生のためのさまざまな工夫を凝らすことが必要となる。壁は造るべきか造らざるべきかの二者択一で計画を進められるほど、人間社会を含む生態系は単純なものではない。

国語 1

ミツバチは人間と同じく建築を造る（中略）。六角形の隔壁の個室にはハチの幼虫がぎっしりと入り、^アヨウイクされる。ハチの巣のようにこれだけ高密度に多数の幼虫を収容する例は、人間社会の建築にもあまり例がないと思う。こうすることで効率的に生育に必要な蜜を与え、また感染症の拡大を防いでいると考えられる。

都市になぜ人が集まり高密度な環境に共存できるのかは、まさにこの隔壁の存在によるものだといえる。二〇世紀の建築デザインの流れは壁を除去して流動的な大空間を造ろうとした時代だったので、壁を重視するといえ、二〇世紀的なイデオロギーと逆行するかに見えるが、壁のさまざまなあり方によって「個」の生存と自由が保障され、あわせて豊かな共生関係を作る可能性のあることを再評価するべきではないか。

また、自然科学をはじめ社会科学や法学の中に登場する境界線は、決まって太さや幅のない抽象的で無機質な線分に基づいているために実体性に乏しく、こうした人間と生物の生存に細やかに対応したものとはいえない。しかし、現実の都市空間や自然環境の中の境界線にはさまざまな幅と多様性があり、そのことが生きた人間社会と豊かな都市空間を生むことにつながっている。

二〇二〇年から二〇二三年にかけての三年間に起きたコロナ禍とウクライナ戦争は、あらゆる種類の世界の分断を、^イケンザイ化することにつながった。そしてこれらの大事件は一見無関係な事柄に見えるが、二〇世紀の方向性を大きく変える共通項を含んでいる。それは「境界線とは何か」ということだと思ふ。ウクライナ問題はベルリンの壁崩壊から三〇年にして、再び境界線をめぐる東西の対立の戦火が上がり、国境線が武力によって一方的に変更されるかどうかの瀬戸際に人類が立たれることになった。そしてコロナ禍は、人と人の境界に常に神経を払わねばならない事態に世界が直面せざるを得なくなった。レストランのプラ板も、ウィルスからお互いの身を守るために新たに考案された境界のデザインだといえる。

これまで都市における隣地境界線と壁は個々人の権利を守る大切な証である一方で、日常的にはあまりにもリアルであるために、^ロデザインの思考の対象となることは少なく、建築と空間を制限し、隣地境界線紛争の火種ともなるなど、必ずしも豊かな都市空間の創出にとってポジティブなメインテーマにはなりえなかった要素である。また国境線も紛争の頻発区域として戦争の匂いのするネガティブなものとして捉えられてきた。しかし都市や地球上に人間や生物が集住するときに、境界線は共生のために工夫すべき最も重要な要素であり、混沌^{こんとん}と無秩序から生命を守るために不可欠な出発点だといえる。

理不尽で意味のない壁を取り除いて空間を自由につなげることが大切であることはいうまでもないことであるが、同時に豊かな境界線のあり方を考えることも大切なことだと思ふ。境界線は分断の象徴ではなく、共生にとって不可欠な存在としてもっと豊かなイメージを持つべきではないか。境界線はかつて人類がごく自然に経験していたように、^ハ海や山脈や川のように多

国語 2